

講師として担当可能な内容 (モデルプログラム「養成・研修の内容構成」対応)

内容	○大項目 ・小項目 ※項目の一部は複数の内容で取り扱う	担当可能◎ 基礎的内容 は可能○
A 外国人 児童生徒等 教育の課題	○グローバル化と外国人児童生徒等 ・多文化化する学校 ・複言語主義 ・多文化主義 ・言語的マイノリティ ○文化間移動とライフコース ・成長・発達の視点 ・社会参加と自己実現 ・アイデンティティ ○多文化共生教育 ・異文化間能力 ・ダイバーシティ ・市民性 ○公教育の役割 ・社会的正義、公正性 ・学習権・言語権 ・教育コミュニティ ○日本語教育の位置付け	○
B 外国人 児童生徒 等教育の 背景・現 状・施策	○外国人児童生徒等の現状と背景 ・「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」 ・在留外国人統計 ・在留資格 ・児童生徒の出身地の教育制度 ・来日の社会的歴史的背景(国際結婚、難民、中国帰国者、日系移民、在日コリアン) ○外国人児童生徒等教育施策 ・「特別の教育課程」としての日本語指導 ・文部科学省開発のカリキュラム、教材、評価ツール ・就学義務と学習権(不就学、義務教育年齢超過) ・学校制度と入試(高校入試、定時制高校、夜間中学、進学・退学率) ○地域の特性 ・当該自治体の多文化化状況(集住/散在) ・エスニック・コミュニティ ・外国人支援の状況	○
C 学校の 受け入れ 体制	○自治体の受け入れの流れ ○自治体(教育委員会)の指導体制 ・日本語学級の設置 ・拠点校(センター校) ・巡回指導 ・通級 ・初期集中日本語指導教室(プレクラス) ・就学前準備教育教室(プレスクール) ・日本語指導員・母語相談員の派遣 ○校内の指導体制 ・校務分掌(外国人児童生徒等教育担当、日本語指導担当) ・スクール・カウンセラー、ソーシャルワーカーとの連携 ・教員の加配 ・派遣日本語指導員、母語相談員 ・ボランティアの日本語支援者、学習支援者、母語支援者 ・取り出し指導(抽出指導)/入り込み指導 ・「特別の教育課程」と個別の指導計画 ・評価と成績 ○教員・支援員間の連携 ・校内教職員・支援員の連携 ・他校との連携 ・保幼小中高間連携	
D 文化適 応	○外国人児童生徒等の文化 ・宗教 ・習慣 ・学校文化(「隠れたカリキュラム」) ・非言語行動 ○文化接触 ・自文化中心主義/文化相対主義 ・文化本質主義/文化構築主義 ・ステレオタイプ、偏見、差別 ・対話 ・異文化の受容 ・自己肯定感 ○子どもの文化適応	○

	<ul style="list-style-type: none"> ・異文化適応のプロセス ・心的文化変容（同化、分離、統合、境界化） ・情意面、行動面、認知面の違い 	
E 母語・母文化・アイデンティティ	<ul style="list-style-type: none"> ○母語と第二言語 ・バイリンガリズム ・二つの言語の関係（二言語相互依存仮説） ・言語環境 ・言語の使い分け ○アイデンティティ ・アイデンティティの動態性・多面性 ・母語・母文化とアイデンティティ ○母語／継承語教育 ・家族とのコミュニケーション ・認知面の支えとしての母語 ・母語保持・伸長の支援 	○
F 言語と認知の発達	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの言語発達 ・一次的ことばと二次的ことば ・萌芽的リテラシー ・ことばと思考 ・第二言語習得のプロセス（沈黙期、チャンク等） ・言語発達と発達障害、学習障害 ○言語能力の捉え方 ・コミュニケーション能力 ・言語の四技能 ・生活言語能力と学習言語能力 ○言語能力の測定法 ・言語テストの目的、実施方法、結果の活用 ・言語能力測定ツール（文部科学省「JSL 児童生徒のための対話型アセスメント（DLA）」） 	
G 日本語の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語としての日本語 ・音韻、文字・表記、語彙、文法 ・学校文法との違い ・諸言語との対照 ○文章・談話 ・ジャンルと文体 ・ことばの機能 ・表現の意図 ・結束性 ○場面とことば ・言語使用域 ・敬語 ・話しことばと書きことば ・共通語と方言 ・ことばの性差 	
H 子どもの日本語教育の理論と方法	<ul style="list-style-type: none"> ○日本語指導の内容（シラバス） ・構造（文型）、場面、トピック、機能 等 ○言語教育の考え方と方法 ・オーディオリンガル・アプローチとコミュニカティブ・アプローチ ・内容（教科等）と言語（日本語）の統合学習（文部科学省「JSL カリキュラム」） ・認知プロセスにもとづく読み・書きの指導 ○学習活動 ・文型練習（パターン・プラクティス等） ・意味を重視した活動（タスク、ロールプレイ、プロジェクトワーク等） ○教材・教具（リソース）の利用と作成 ・教材の分析 ・教材の作成（補助教材・ワークシート・リライト教材等） ・メディアの活用 ・知的財産権・著作権 ○教科の指導 ・「主体的・対話的で深い学び」 ・教科教育法 ・授業のことば ・教科のことば ・学習参加のための支援 	
I 日本語指導の計画と実施	<ul style="list-style-type: none"> ○日本語のコース設計の手順 ・実態把握（学習歴、出身国の教育内容、日本語の力、教科の力、学習環境） ・目標設定と指導内容の決定 ・指導方法と評価方法の決定 ○日本語プログラム ・サバイバル、日本語基礎、技能別日本語、内容と日本語の統合学習「JSL カリキュラム」）、教科の補習 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育、人権教育、国際理解教育等とのクロスカリキュラム ○指導計画の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画の作成 ・対象児童生徒と指導期間の決定 ・目標と評価 ・日本語プログラムの組み合わせ ・「特別の教育課程」としての日本語指導 ○模擬授業 <ul style="list-style-type: none"> ・日本語指導の学習指導案の作成 ・模擬授業の実施 ・振り返り 	
J 在籍学級での学習支援	<ul style="list-style-type: none"> ○学習参加のための支援 <ul style="list-style-type: none"> ・スキップフォルディング（足場かけ 例：「JSL カリキュラム中学校編」日本語支援の5つの視点） ・フォーカス・オン・フォーム ○学習環境づくり <ul style="list-style-type: none"> ・校内、教室内の掲示 ・教材の言語面への配慮（教材、教具、試験問題） ・周囲の児童生徒との相互学習 ・周囲の児童生徒による支援 ○日本語学習と他教科の内容・活動との関連付け（カリキュラム・マネジメント） 	
K 社会参加とキャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリア教育 <ul style="list-style-type: none"> ・自己実現 ・ロールモデル ・進路指導（進学・就職／多言語進路ガイダンス） ・外国人生徒等対象の特別入試、特別措置 ・就労と在留資格 ○社会参加とことばの力 <ul style="list-style-type: none"> ・情報リテラシー ・社会参画 ・市民性教育 	◎
L 保護者・地域とのネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者の教育参加の促進 <ul style="list-style-type: none"> ・日本語力への配慮（通訳・翻訳、やさしい日本語） ・教育制度・学校文化理解の促進（学校行事、就学・進路関係資料、学校のお知らせ） ・就学ガイダンス、外国人保護者懇談会等の実施 ・保護者の社会的状況への配慮（外国人の雇用状況とその背景等） ○多文化家族 <ul style="list-style-type: none"> ・言語・文化の違いによる断絶 ・サード・カルチャー・キッズ ○地域、専門家との連携・協力 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の外国人支援の状況 ・エスニック・コミュニティ ・居場所づくり ・国際交流協会、NPO 団体等との連携 ・福祉・医療等関連機関との連携 ・大学等教育研究機関との連携 	◎
M 現場における実践（実地教育・研修）	<ul style="list-style-type: none"> ○現場での実践（観察、交流、支援、授業の実施） <ul style="list-style-type: none"> ・対象児童生徒の多様性（言語文化・年齢・家族背景・滞日歴・学習歴他）の理解 ・指導体制・指導条件の多様性の理解 ・条件に応じた指導計画の作成 ・状況に応じた支援の工夫 ・関係者との連携・協働 ○実施記録の作成と振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・現場の状況 ・実施内容 ・授業・活動時の児童生徒の参加状況 ・担当教員・関係者から得た情報 ○実施した授業の振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・作成した指導計画について ・当初の子ども観・教材観・指導観等 ・児童生徒の学び ・授業時の支援・対応について ○現場での実践における倫理 	◎
N 成長する教師（教員・支援員）	<ul style="list-style-type: none"> ○省察的实践家 <ul style="list-style-type: none"> ・自己の変容 ・自己研修 ・実践の共有 ○外国人児童生徒等教育の専門性の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・日本語教育に関わる専門性 ・外国人児童生徒等教育に関わる専門性 ・他の領域の専門家との協働 ○教師（教員・支援員）としての成長 	

	<ul style="list-style-type: none">・教師のキャリアにおける外国人児童生徒等教育経験の意味・リーダーとしての役割・新しい価値の創造・社会への働きかけ	
--	---	--

文部科学省委託「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」(公益社団法人日本語教育学会)